

平成30年度 四日市市環境活動賞受賞者紹介

●受賞団体

海蔵川探検隊・うみくら

グリーンパトロール

コンビナート語り部の会

●表彰式

平成30年12月1日（土曜日）にじばさん三重6階で開催しました「四日市公害と環境未来館環境フェア」中で表彰式を行いました。



海蔵川探検隊・うみくら

●表彰活動の内容

四日市市内を流れる都市型の河川でありながら、希少種を始めとして豊かな生物相と憩いの空間を保持している海蔵川を未来に残すために、地域の自治会や学校向けに自然観察会を行うとともに、行政と連携した保全活動を実施しています。自然観察会などを通じて、野鳥、昆虫、陸生植物、魚類など水生生物の生息状況をモニターし、よりよい環境保全のために、行政への提言を行っています。

●活動の内容(詳細)

【調査、観察会】(魚、水生昆虫、野鳥など)

小学校の総合学習、子どもエコクラブ、地域の住民・子ども、社会人の団体などを対象として

【調査】(海蔵川とその周辺の生きもの)

水中の魚類や昆虫類、川の中州・河川敷・周りの水田や畑の植物、野鳥、両生類ハチュウ類も観察すれば記録

【堰調査】

回遊性の魚類等が遡上できる機能を発揮しているか

【公共工事における希少種の保護、保全活動】

現在工事が進められている北勢バイパス工事において、海蔵川にかかる箇所は希少種と呼ばれる動植物が多数生息・自生しており、通常の工事を行えばその個体は絶滅の恐れがあるため、国土交通省に提言し希少種の保全活動を共同で実施している。

●活動の目的

北勢バイパスが海蔵川の希少生物が生息するポイントを通るということで、バイパス建設の問題提起をするために集まったものであるが、現在は国土交通省、三重県、四日市市と連携・協調しながらよりよい河川環境・市民と川のかかわり合い方を模索しています。

また調査活動で見えてきた、身近な川の豊富な生物相を一人でも多くの方に知ってもらうため、様々なPR活動をしています。

この素晴らしい身近な自然を次世代へ伝え残すことを目標にしています。

●経歴(概要)

- ・平成17年海蔵川を愛するメンバーで探検隊を結成
- ・平成17年より年4回 海蔵川において、堰が水生生物に与える影響を調べるため、三重県の「みえのうみ」事業より支援を得てモニタリング調査を開始
- ・平成17年より年4回 野鳥・植物のモニタリングを開始
- ・水生生物、野鳥、植物の希少種を確認することにより、豊かな生物相を確認
- ・平成18年より観察会を実施し、市民に伝える活動を開始
- ・連合みえ、子どもエコクラブ等と連携して、広く観察会を実施
- ・平成20年7月菰野町立鶴川原小学校を対象として総合学習での自然観察会を実施、以後継続

●今後の予定

現在のメンバーの数は少ないですが、様々な世代の、それぞれ得意分野を持ったメンバーが集い、楽しみながら定期的に無理をせずに活動を行っています。

メンバーがまず豊かな海蔵川の自然を楽しむこと、そして、楽しんでいる姿を他の人たちに伝えることから始めています。また、積極的にリーダー養成のスキルを身に付け、外に向かって開かれた活動を目指しています。

興味のある方はぜひ一緒に活動してみませんか？

平成30年度 四日市市環境活動賞 受賞者

グリーンパトロール

●表彰活動の内容

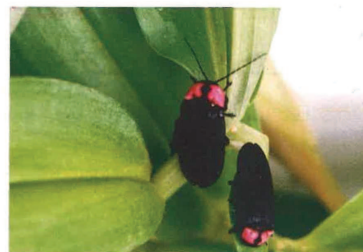
内部地区のみどり豊かな自然と里山に飛び交うホタルを守り・育てていくために、以下の課題について一つひとつ取り組みを進めてきた。

- ①内部地区でホタルの保全にあっていた地区・人を中心に「内部ホタルを育てる会」を組織化し、ホタルが生息する5つの地区に「ホタルの会」が作られる。
- ②各地区のホタルを守っていくためには、生息地の住民の理解や協力が必要であり、各地区の子供会や自治会の協力を得て、毎年ホタル観察会を行う。
- ③ホタルを守り・育てていくためには、ホタルのことをよく勉強し、力をつけなければなりません。具体的には、内部地区でホタルがどのような生活をしているかを調べ、勉強することです。幼虫の上陸、蛹化、ホタルの羽化、ホタルの飛翔数等、ホタルの生態調査に毎年強化しました。
- ④次の課題は、内部地区の自然とホタルを将来にも渡って守ってゆくのは誰か。私たちでは出来ないことである。それは現在の内部の子供たちにゆだねる以外にないとの結論に達しました。その結論から、現在進めている小学校（3年生）のホタルのパネル展示とホタル教室（教育）への取り組みとなっています。
- ⑤もう一つの取り組みは、内部地区でホタルが生息する環境はどのようにしてつくられているか、水田耕作（農業）により生態系が守られていることです。農業が地域で果たす役割は①食料確保②環境保全③防災④多様な生き物がいかされている⑤私たちの生活が癒される。農業（生態系）を理解するために、環境未来館と「親子田んぼ体験」の取り組みを行う。内部地区の小学校では、田植え体験とホタル観察は必ず勉強して卒業するというもの。

以上、内部地区で自然保護と環境対策に力を注いできました。

●活動の目的

内部地区のみどり豊かな自然と 里山に飛び交うホタルを守り・育てて行くことを目的とします。



内部地区に生息するゲンジボタル



田んぼで育つヘイケボタル

●活動の内容(詳細)

<平成30年度の活動報告>

- ①ホタルの生態調査（4～6月）
毎年4月上旬のゲンジボタルの幼虫の上陸から、6月のホタル羽化まで調査を行う。具体的には、3月20日から6月30日まで毎日気温・水温・地温の3つを測定し、ホタルの動向を観察。
- ②小学校のホタル教室（4～6月）
4～6月の3ヶ月間小学校（内部・内部東小学校）でホタルのパネル展示と3年生を対象としたホタル教室を行う。（内部小は5月31日、内部東小学校は5月29日）
ホタル教室後、子供たちはさらにホタル学習を深め「ホタル新聞」を作成したり、ホタルのおじさんへの「お礼の手紙」も書いている。
- ③各地区でホタル観察会を実施（5月26日～6月3日）
毎年5つのホタル生息地で観察会を行う。今年はホタルの発生も多く、どこの観察会も子供達の歓喜に湧いた。内部地区以外の参加者も増えている。
- ④内部東小学校のトンボ池の修復とホタル池作りの取り組み
トンボ池は当初は13種類がいたが、現在はオオシオカラトンボのみ生息している。学校からトンボ池の修復とホタルが飛び交う池を作ってほしいとの要望があり、今年から挑戦。7月・8月にとんぼ池の草刈りととんぼ調査を実施する。秋からはホタル池作りととんぼ池の拡張の作業に入る。冬場にはイノシシ対策の策作りを行う。
- ⑤11月20日秋のホタル報告会 一年間の活動をまとめ報告会を行うもの

●経歴(概要)

- 平成20年に采女が丘団地の退職者を中心に、13名でグリーンパトロールを発足させる。自治会・住民が行わない、団地内のメイン道路や外周道路、そして、1丁目から5丁目までの公園の剪定・整備を行い、美しい街づくりに努力する。
- 平成21～26年までは「個性ある街づくり」に応募し、団地内のインフラ整備に力を入れる。
- 平成28年より現在まで「花と緑いっぱい事業」に応募し、公園づくりや花壇づくり等に挑戦する。
- 平成25年～現在まで、子供会と一緒に自然（里山）教室を行い、ドングリ教室・クリスマスリース作り等と団地の周辺にいるホタルの観察会を行う。
ホタルについては、市民センターの要請で内部地区のホタルの保存と育成に参加することになり、今回の報告内容となっている。

●今後の予定

- 11月20日「秋のホタル報告会」を行い、一年間の活動のまとめ・総括を行う。
- 11月～平成31年3月 内部東小学校のトンボ池の修復とホタル池作り
 - ◎7月 トンボ池の草刈りの実施
 - ◎8月 トンボ池の草刈りの実施
 - ◎9～12月 ホタル池作りとトンボ池の拡張作業
 - ◎1～3月 イノシシ対策（策作り）

コンビナート語り部の会

●表彰活動の内容

1. 四日市コンビナート夜景クルーズのボランティアガイド
2. エコパートナーとして、シンポジウムの企画・運営
3. そらんぽエコカレッジの企画・運営(バスボムづくり)
4. こども科学セミナーの協力(コンビナート工場見学)
5. こどもフェスティバルの協力(バスボムづくり)
6. 四日市大学環境フォーラムへの参加
7. 小学校高学年を対象とした出前教育講座
8. 地域小学生を対象とした科学実験体験の講師
9. 市の「教育旅行誘致」協議会への参画と支援 等

●活動の内容(詳細)

1. H21～30 四日市コンビナート夜景クルーズガイド
(乗船者 3万人)
2. H24～30 こども科学セミナー支援 (教育委員会)
3. H28～30 エコパートナー、そらんぽ支援 (環境部)
4. H29～30 こどもフェスティバル参加 (まちづくり財団)
5. H30 吉崎海岸エクスカーショ参加、工場見学案内
6. H28 こども体験学習支援 (語り部の会主催)
7. H27～29 四日市大学環境フォーラム参加
8. H29 四日市大学環境特殊講座講師

活動期間 H30年10月現在 9年6か月

年間活動回数 約10回

クルーズガイドは年間 約100回以上

活動地域 四日市市

●活動の目的

1. コンビナート企業OBとして、在職中に得た知識や経験、人脈を生かし、四日市石油化学コンビナートのことをみなさんに伝え、理解を頂く
 - * 四日市コンビナートの歴史
 - * 四日市公害の歴史とその後の四日市の変革
 - * 私たちとコンビナート製品の関わり
2. 科学実験を通して、子どもたちに「ものづくり」の楽しさを経験してもらう
3. 四日市コンビナート夜景クルーズで、県外からの多くの観光客を迎え入れ、今の四日市市を体感して頂く
4. 過去の歴史を伝え(環境未来館の紹介)、環境先進都市として活動していることをアピールしていく

●経歴(概要)

「コンビナート語り部の会」の組織は、「四日市公害環境未来館」のエコパートナーとして、市民協働課市民活動団体に登録しています。現在の登録会員は12名、その内実際に諸活動の中心は4名の会員が行っています。約10年余りの活動を通して、多くの方にご理解を頂いてきました。

●今後の予定

四日市は、公害の町として多くの人々が認識している。しかし四日市は

- * 歴史ある町 : 東海道53次43番目の宿場町
お伊勢参りの通り道
- * 日本で最初に稼働した石油化学コンビナートの町
- * 多くの地場産を持っている(万古焼、かぶせ茶、そうめん 等)である。

「公害の町四日市から、工場夜景のきれいな町四日市」へ「産業と環境の調和の取れたまち」をアピールしていきたい